

しまきあかひこ
島木赤彦 歌碑

池田八幡神社境内



この町の家ひくくして道広し

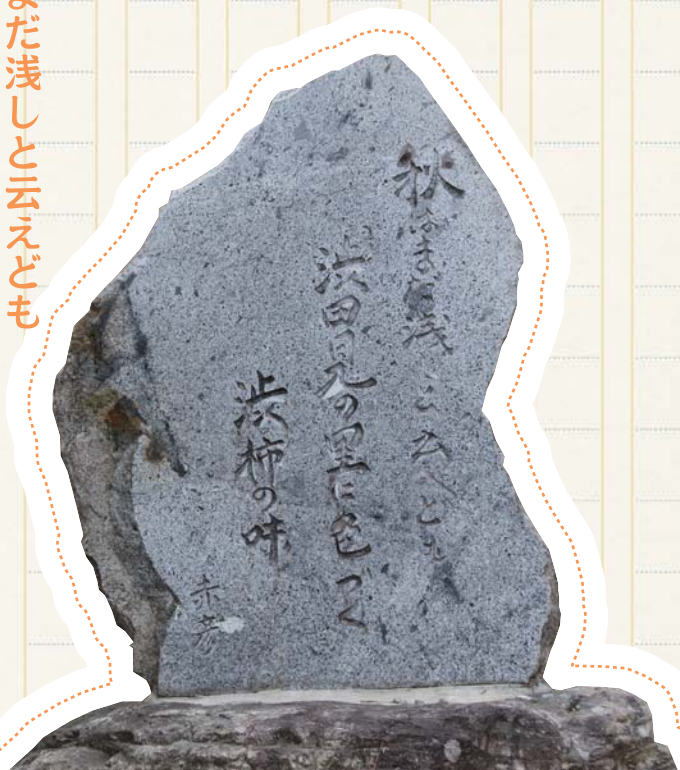
雪の山々あらわにし見ゆ



諏訪で生まれた赤彦は、長野師範学校を卒業して、明治31年(1898)に教師として池田尋常高等小学校へ赴任しました。勤めたのは2年2カ月でしたが、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばす教育を大切にしました。子どもたちの特徴をたねんに記録に残して教育に役立てています。また、若い情熱を育てようと、この頃はやりだした野球を取り入れ、対外試合を行うなど意欲的に取り組んでいます。

池田を去ってから、正岡子規や伊藤左千夫など、当時の代表的な歌人について本格的に短歌を学びました。アララギ派という歌人たちの仲間に加わり、すぐれた歌をつくりながら、会の代表をつとめ多くの歌人を育てました。「この町の家ひくくして道広し 雪の山々あらわにし見ゆ」と池田町の特徴をとらえた歌をはじめ、多くの作品が残されています。

5 島木赤彦 歌碑

浪中公民館東150m
個人宅庭

秋はまだ浅しと云えども

洪田見の里に色づく

洪柿の味

アララギ派とは?

短歌雑誌「アララギ」に参加した作家のグループのことをいいます。明治41年(1908)蔵真一郎が「阿羅々木」として創刊した雑誌が元になっています。創刊の翌年、正岡子規に俳句を学んだ、伊藤左千夫が中心になって編集をすることになり、「アララギ」と誌名を改めました。古泉千樫・斎藤茂吉・島木赤彦・土屋文明など正岡子規の短歌のグループである、根岸短歌会の作家が参加していました。素朴で雄大な万葉調の歌風が特徴で、近代の短歌の発展に大きな足跡を残しました。